



2024年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年5月10日

上場会社名 JCRファーマ株式会社 上場取引所 東
コード番号 4552 URL <https://www.jcrpharm.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 芦田 信
問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員経営戦略本部長 (氏名) 伊藤 洋 TEL 0797(32)1995
定時株主総会開催予定日 2024年6月26日 配当支払開始予定日 2024年6月27日
有価証券報告書提出予定日 2024年6月26日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家及びアナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期の連結業績（2023年4月1日～2024年3月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	42,871	24.8	7,531	51.4	7,264	34.1	5,507	46.0
2023年3月期	34,343	△32.8	4,975	△75.0	5,418	△73.6	3,772	△74.0

(注) 包括利益 2024年3月期 6,475百万円 (66.8%) 2023年3月期 3,881百万円 (△73.3%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期	44.13	43.92	10.3	7.4	17.6
2023年3月期	30.35	30.22	7.4	5.6	14.5

(参考) 持分法投資損益 2024年3月期 △1,090百万円 2023年3月期 △7百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	102,226	56,475	54.2	443.62
2023年3月期	94,937	52,413	54.2	412.11

(参考) 自己資本 2024年3月期 55,365百万円 2023年3月期 51,421百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期	9,312	△2,690	△2,031	18,756
2023年3月期	△5,500	△15,002	1,948	13,278

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00	2,502	65.9	4.9
2024年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00	2,502	45.3	4.7
2025年3月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00		67.5	

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,300	△3.7	5,400	△28.3	4,600	△36.7	3,700	△32.8	29.65

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無
④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期	129,686,308株	2023年3月期	129,686,308株
② 期末自己株式数	2024年3月期	4,881,914株	2023年3月期	4,910,773株
③ 期中平均株式数	2024年3月期	124,793,808株	2023年3月期	124,307,714株

(参考) 個別業績の概要

1. 2024年3月期の個別業績（2023年4月1日～2024年3月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	42,871	24.8	7,549	48.2	8,048	52.3	6,364	72.6
2023年3月期	34,343	△32.8	5,095	△74.7	5,284	△74.1	3,687	△74.5

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期	51.00	50.76
2023年3月期	29.67	29.54

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	102,102	56,141	54.2	443.32
2023年3月期	94,551	52,006	54.2	410.86

(参考) 自己資本 2024年3月期 55,328百万円 2023年3月期 51,265百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「経営成績に関する概況」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する概況	2
(2) 財政状態に関する概況	4
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	6
3. 連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
連結損益計算書	9
連結包括利益計算書	10
(3) 連結株主資本等変動計算書	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(セグメント情報)	14
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	16
4. その他	17
研究開発項目	17

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績に関する概況

①当期の経営成績

売上高は428億71百万円（前期比24.8%増）となりました。

遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤「グロウジェクト[®]」は、2023年4月に薬価改定はありましたが、販売数量が大きく増加しました。また、「イズカーゴ[®]点滴静注用10mg」なども好調に推移しました。アストラゼネカ株式会社の新型コロナウイルスに対するワクチン原液の国内製造の受託を予定どおり終了したことなどによる減収はありましたが、主力製品が好調に推移し、契約金収入も増加した結果、前年同期に比べて増収となりました。

営業利益は75億31百万円（前期比51.4%増）、経常利益は72億64百万円（前期比34.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は55億7百万円（前期比46.0%増）となりました。

積極的な研究開発活動の結果、研究開発費は27.6%増加し112億34百万円（前期比24億31百万円増）となりました。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	増減
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	%
売上高	34,343	42,871	24.8
営業利益	4,975	7,531	51.4
経常利益	5,418	7,264	34.1
親会社株主に帰属する当期純利益	3,772	5,507	46.0

②主な売上

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	増減
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	%
ヒト成長ホルモン製剤 グロウジェクト [®]	12,261	17,913	46.1
ムコ多糖症Ⅱ型治療剤 イズカーゴ [®] 点滴静注用	4,414	5,171	17.2
腎性貧血治療薬 エポエチンアルファBS注「JCR」	4,696	4,652	△0.9
ダルベポエチンアルファBS注「JCR」	2,710	1,994	△26.4
再生医療等製品 テムセル [®] HS注	1,986	2,658	33.8
ファブリー病治療薬 アガルシダーゼベータBS点滴静注「JCR」	3,404	3,236	△4.9
964	1,661	72.2	
契約金収入	6,546	7,413	13.3
AZD1222原液	1,931	—	—

(注) 契約金収入は、事業化についての実施許諾契約および共同プロモーションに関する契約が締結されたこと等に由来します。

③研究開発の状況

[ライソゾーム病治療薬]

- ・当社では現在、17種類を超えるライソゾーム病治療薬について、独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo[®]」を適用した新薬の研究開発に重点的に取り組んでおります。
- ・血液脳関門通過型ハンター症候群治療酵素製剤pabinafusp alfa（開発番号：JR-141）については、米国において米国食品医薬品局（FDA）より2022年12月にRare Pediatric Disease（※1）の指定を受けております。2022年2月に最初の被験者への投薬が開始されたグローバル臨床第3相試験は、現在、中枢神経症状を有する患者さんを対象としたcohort Aにおける中間解析に必要な症例数を2024年度第1四半期中に登録完了するよう取り組みを進めております。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症Ⅰ型治療酵素製剤lepunafusp alfa（開発番号：JR-171）については、現在、日本・ブラジル・米国での13週間の臨床第1/2相試験を完了し、その継続試験を実施しております。グローバルでの臨床第3相試験の早期開始に向けて、準備を進めております。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症ⅢA型治療酵素製剤（開発番号：JR-441）については、ドイツ連邦共和国規制当局Paul-Ehrlich Institute(PEI)に第1/2相試験のCTA（clinical trial application）が受理され、2023年10月には最初の被験者への投薬が開始されました。現在、被験者の登録を進めており、2024年下半年には症例登録を完了する見込みです。2023年12月には、米国においてFDAよりオーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）の指定を受けております。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症ⅢB型治療酵素製剤（開発番号：JR-446）については、現在、2024年度中のグローバル臨床試験開始に向けた取り組みを進めております。2023年9月に株式会社メディパルホールディングスと海外における事業化についての実施許諾契約および日本における共同開発・商業化契約を締結いたしました。
- ・その他のJ-Brain Cargo[®]を適用したライソゾーム病治療薬（ボンペ病治療薬（開発番号：JR-162）、スライ症候群治療薬（開発番号：JR-443）、GM2ガングリオシドーシス治療薬（開発番号：JR-479）についても、研究開発を順次行うとともにグローバル展開を推進してまいります。なお、フコシドーシス治療薬（開発番号：JR-471）につきましては、2022年10月に締結した実施許諾契約に基づき、株式会社メディパルホールディングスに対し、日本を除く全世界における研究・開発、製造および販売などの事業化に関する再実施許諾権付の独占的実施権を許諾いたしました。現在、臨床試験開始に向けた必要な研究等を進めております。

[基盤技術の創出]

- ・JCR独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo[®]」の様々なモダリティへの応用可能性を広げる研究の他、J-Brain Cargo[®]技術に続く新たな基盤技術の創出に注力しております。
- ・2023年5月にアンジェリーニファーマとてんかんを対象疾患として、J-Brain Cargo[®]技術を適用した新規生物学的治療薬の独占的グローバル開発および商業化契約を締結いたしました。
- ・2023年12月にアレクシオン・アストラゼネカ・レアディジーズ（アレクシオン社）と、J-Brain Cargo[®]技術を適用した新規核酸医薬品創製を目的とした共同研究、選択権およびライセンス契約を締結いたしました。また、2023年3月に契約したJ-Brain Cargo[®]技術適用の神経変性疾患治療薬に関する共同研究において、研究段階におけるマイルストーンを2024年3月に達成いたしました。

[再生医療等製品]

- ・「テムセル[®]HS注」の新たな適応拡大として新生児低酸素性虚血性脳症（開発番号：JR-031HIE）に対する臨床第1/2相試験を終了いたしました。今後の開発計画については検討中であります。

〔ヒト成長ホルモン製剤〕

- ・「グロウジェクト[®]」の骨端線閉鎖を伴わないSHOX異常症における低身長（開発番号：JR-401X）の効能追加については、2023年6月に一部変更承認を取得いたしました。
- ・長時間作用型遺伝子組換えヒト成長ホルモン製剤（開発番号：JR-142）の臨床第2相試験を終了いたしました。現在、投与された患者さんを対象とした継続試験を実施中であります。また、2024年度の臨床第3相試験の開始に向けた準備を進めております。

※ Rare Pediatric Disease指定

希少小児疾患の予防と治療のための新薬および生物製剤の開発を促進することを目的としているもの。今後の米国における製造販売承認のための優先審査バウチャーを取得できる可能性がある。

④次期の見通し

次期の連結業績の見通しは次のとおりです。

	当期実績 (2024年3月期)	次期見通し (2025年3月期)	増減額	増減率
売上高（百万円）	42,871	41,300	△1,571	△3.7%
営業利益（百万円）	7,531	5,400	△2,131	△28.3%
経常利益（百万円）	7,264	4,600	△2,664	△36.7%
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	5,507	3,700	△1,807	△32.8%

（売上高）

遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤グロウジェクト[®]およびハンター症候群治療薬イズカーゴ[®]につきましては、順調な販売数量の伸長による増収を見込んでおり、主力製品につきましては当期と同水準の売上を見込んでおります。また、ライセンス事業につきましても引き続き積極的に取り組んでまいります。一方で、受託製造売上が減少する影響により、売上高合計としましては減少する見込みです。

（利益）

研究開発活動につきましては、将来の更なる飛躍に向けて重要な位置付けと捉え、今後数年間は積極的な投資を見込んでおり、研究開発費は130億円（当期比15.7%増）、営業利益は54億円（当期比28.3%減）を見込んでおります。なお、経常利益は46億円（当期比36.7%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は37億円（当期比32.8%減）を見込んでおります。

（2）財政状態に関する概況

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における資産合計は1,022億26百万円（前連結会計年度末比72億88百万円増）、負債合計は457億50百万円（前連結会計年度末比32億26百万円増）、純資産合計は564億75百万円（前連結会計年度末比40億61百万円増）となりました。

流動資産は、未収入金が減少した一方で、現金及び預金、売掛金及び契約資産および棚卸資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ97億79百万円増加して575億81百万円となりました。固定資産につきましては、有形固定資産が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ24億90百万円減少して446億44百万円となりました。

流動負債は、未払法人税等および未払消費税等が増加した一方で、短期借入金が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ56億26百万円減少して301億35百万円となりました。固定負債は、長期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ88億53百万円増加して156億15百万円となりました。

純資産につきましては、配当金の支払があった一方で、親会社株主に帰属する当期純利益の計上などにより、前連結会計年度末に比べ40億61百万円増加して564億75百万円となりました。

これらの結果、当連結会計年度末における自己資本比率は、前連結会計年度末と同じ54.2%となりました。

当社グループがグローバルで持続的な成長を行うため、機動的かつ安定的に資金調達手段を確保する必要があり、各金融機関との間で、バックアップラインとして運転資金を確保する事を目的として、総額400億円のコミットメントライン契約を締結しております。

なお、このうち170億円については、新製剤工場の建設に関する資金調達のために新たに締結したものであります。この新製剤工場の建設は、経済産業省「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」に採択されており、同事業における補助金を用いて当該建設を行います。当コミットメントライン契約につきましては、補助金受領までの必要資金に充当することを目的としたものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ54億77百万円増加して187億56百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況および主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、93億12百万円（前連結会計年度比148億13百万円の収入増）となりました。これは主に、売上債権の増加額37億97百万円、棚卸資産の増加額24億37百万円があった一方で、税金等調整前当期純利益の計上額72億44百万円、減価償却費の計上額31億97百万円があったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、26億90百万円（前連結会計年度比123億12百万円の支出減）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出15億26百万円、関係会社株式の取得による支出6億円があったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、20億31百万円（前連結会計年度比39億80百万円の支出増）となりました。これは主に、配当金の支払額25億円があったことなどによるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
自己資本比率	66.6%	51.3%	51.8%	54.2%	54.2%
時価ベースの自己資本比率	607.9%	600.6%	287.6%	185.7%	104.9%
キャッシュ・フロー 対有利子負債比率	1.8年	1.8年	2.0年	一年	2.9年
インタレスト・カバレッジ・ レシオ	219.0倍	223.7倍	202.9倍	一倍	93.0倍

(注) 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

※いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

※キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローを採用しております。有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象にしております。また、利払いについては連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

※2023年3月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率およびインタレスト・カバレッジ・レシオは、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスのため記載しておりません。

(3) 利益分配に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益の還元を経営上の重要な施策の一つとして位置づけております。

剰余金の配当等の決定に関しては、将来の利益の源泉となる新薬開発や経営体質強化のための内部留保を確保しつつ、業績およびキャッシュ・フローの状況などを勘案しながら継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。

当期の期末配当金につきましては、上記の基本方針のもと2024年5月10日開催の取締役会におきまして1株当たり10円とさせていただきますことを決議いたしました。これにより、中間配当を加えました通期の配当金は1株につき20円（中間配当金10円、期末配当金10円）となります。

内部留保資金につきましては、企業体質を強化し、持続的な収益向上と利益還元に寄与する原資として有効活用してまいります。

また、次期（2025年3月期）の配当につきましては、1株当たり20円（中間配当金10円、期末配当金10円）を予定しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、会計基準につきまして日本基準を採用しております。

国際会計基準につきましては、日本国内の採用動向を踏まえつつ検討を進めていく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,278	18,756
売掛金及び契約資産	11,137	14,934
商品及び製品	1,098	2,111
仕掛品	5,717	6,220
原材料及び貯蔵品	11,699	12,602
その他	4,870	2,955
流動資産合計	47,802	57,581
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,128	14,140
機械装置及び運搬具（純額）	1,003	3,293
土地	10,379	10,587
建設仮勘定	13,008	171
その他（純額）	1,161	1,847
有形固定資産合計	32,681	30,040
無形固定資産		
特許権	2,434	2,158
その他	1,217	1,338
無形固定資産合計	3,652	3,496
投資その他の資産		
投資有価証券	8,867	9,120
退職給付に係る資産	214	333
繰延税金資産	1,357	1,288
その他	366	369
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	10,800	11,107
固定資産合計	47,135	44,644
資産合計	94,937	102,226

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,563	890
短期借入金	16,800	8,950
1年内償還予定の社債	500	—
未払金	2,803	2,745
未払法人税等	33	1,657
圧縮未決算特別勘定	11,996	11,996
賞与引当金	974	1,016
役員賞与引当金	114	114
その他	975	2,765
流動負債合計	35,762	30,135
固定負債		
長期借入金	5,500	14,350
従業員株式給付引当金	95	81
退職給付に係る負債	924	903
その他	241	280
固定負債合計	6,761	15,615
負債合計	42,523	45,750
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,061	9,061
資本剰余金	10,384	10,384
利益剰余金	34,273	37,278
自己株式	△2,978	△2,963
株主資本合計	50,740	53,761
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	555	741
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	146	731
退職給付に係る調整累計額	△20	132
その他の包括利益累計額合計	681	1,604
新株予約権	740	812
非支配株主持分	251	297
純資産合計	52,413	56,475
負債純資産合計	94,937	102,226

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	34,343	42,871
売上原価	8,886	11,620
売上総利益	25,456	31,251
販売費及び一般管理費	20,480	23,719
営業利益	4,975	7,531
営業外収益		
受取利息	33	111
受取配当金	28	26
為替差益	387	767
その他	91	151
営業外収益合計	541	1,056
営業外費用		
持分法による投資損失	7	1,090
支払利息	44	86
支払手数料	15	111
その他	32	35
営業外費用合計	99	1,324
経常利益	5,418	7,264
特別利益		
投資有価証券売却益	10	—
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	10	0
特別損失		
固定資産処分損	16	20
特別損失合計	16	20
税金等調整前当期純利益	5,412	7,244
法人税、住民税及び事業税	525	1,788
法人税等調整額	1,099	△80
法人税等合計	1,625	1,707
当期純利益	3,787	5,536
非支配株主に帰属する当期純利益	14	28
親会社株主に帰属する当期純利益	3,772	5,507

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益	3,787	5,536
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△63	185
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	147	166
退職給付に係る調整額	11	153
持分法適用会社に対する持分相当額	—	434
その他の包括利益合計	94	939
包括利益	3,881	6,475
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,834	6,430
非支配株主に係る包括利益	46	44

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,061	10,994	33,241	△3,600	49,697
当期変動額					
剰余金の配当			△2,740		△2,740
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,772		3,772
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△610		621	10
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△610	1,031	621	1,042
当期末残高	9,061	10,384	34,273	△2,978	50,740

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主 持分	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	繰延ヘッジ損 益	為替換算調 整勘定	退職給付に 係る調整累 計額	その他の包 括利益累計 額合計			
当期首残高	619	0	30	△32	618	567	205	51,089
当期変動額								
剰余金の配当								△2,740
親会社株主に帰属する 当期純利益								3,772
自己株式の取得								△0
自己株式の処分								10
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△63	△0	115	11	62	173	45	282
当期変動額合計	△63	△0	115	11	62	173	45	1,324
当期末残高	555	—	146	△20	681	740	251	52,413

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,061	10,384	34,273	△2,978	50,740
当期変動額					
剰余金の配当			△2,502		△2,502
親会社株主に帰属する 当期純利益			5,507		5,507
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分				15	15
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	3,005	15	3,020
当期末残高	9,061	10,384	37,278	△2,963	53,761

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主 持分	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	繰延ヘッジ損 益	為替換算調 整勘定	退職給付に 係る調整累 計額	その他の包 括利益累計 額合計			
当期首残高	555	—	146	△20	681	740	251	52,413
当期変動額								
剰余金の配当								△2,502
親会社株主に帰属する 当期純利益								5,507
自己株式の取得								△0
自己株式の処分								15
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	185	△0	585	153	923	71	45	1,040
当期変動額合計	185	△0	585	153	923	71	45	4,061
当期末残高	741	△0	731	132	1,604	812	297	56,475

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,412	7,244
減価償却費	1,997	3,197
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	56	68
賞与引当金の増減額 (△は減少)	71	41
株式報酬費用	173	71
受取利息及び受取配当金	△62	△138
支払利息	44	86
為替差損益 (△は益)	△959	△734
売上債権の増減額 (△は増加)	4,448	△3,797
未収入金の増減額 (△は増加)	△1,179	407
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,877	△2,437
仕入債務の増減額 (△は減少)	238	△672
未払金の増減額 (△は減少)	△2,401	391
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△312	1,961
未払法人税等の増減額 (△は減少)	△417	174
前払費用の増減額 (△は増加)	△121	△228
契約負債の増減額 (△は減少)	417	△171
持分法による投資損益 (△は益)	7	1,090
その他	△773	725
小計	2,762	7,280
利息及び配当金の受取額	62	138
利息の支払額	△46	△87
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△8,279	1,982
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,500	9,312
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	259	—
有形固定資産の取得による支出	△7,654	△1,526
無形固定資産の取得による支出	△906	△569
関係会社株式の取得による支出	△6,717	△600
その他	15	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,002	△2,690
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	3,000	△6,900
長期借入れによる収入	4,750	9,600
長期借入金の返済による支出	△3,050	△1,700
社債の償還による支出	—	△500
自己株式の純増減額 (△は増加)	10	15
配当金の支払額	△2,739	△2,500
その他	△22	△46
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,948	△2,031
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,099	886
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△17,454	5,477
現金及び現金同等物の期首残高	30,733	13,278
現金及び現金同等物の期末残高	13,278	18,756

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社グループは「医薬品事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎、1株当たり当期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり当期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額 (円)	412.11	443.62
(算定上の基礎)		
連結貸借対照表の純資産の部の合計額 (百万円)	52,413	56,475
普通株式に係る純資産額 (百万円)	51,421	55,365
差額の主な内訳 (百万円)		
新株予約権	740	812
非支配株主持分	251	297
普通株式の発行済株式数 (株)	129,686,308	129,686,308
普通株式の自己株式数 (株)	4,910,773	4,881,914
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 (株)	124,775,535	124,804,394

項目	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益 (円)	30.35	44.13
(算定上の基礎)		
連結損益計算書上の親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,772	5,507
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,772	5,507
普通株式の期中平均株式数 (株)	124,307,714	124,793,808
(3) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	30.22	43.92
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (百万円)	—	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定 に用いられた普通株式増加数の主要な内訳 (株)		
新株予約権	530,608	603,248
普通株式増加数 (株)	530,608	603,248
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株 式の概要	—	—

(注) 株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託制度における信託が保有する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。

1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前連結会計年度331,246株、当連結会計年度306,592株であり、1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は、前連結会計年度324,900株、当連結会計年度296,000株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. その他

研究開発項目

遺伝子組換え医薬品

開発番号 (一般名)	開発段階	適応症等	備考
JR-141 (血液脳関門通過型遺伝子組換え イズロン酸-2-スルファターゼ)	グローバル: 臨床 第3相試験	ムコ多糖症Ⅱ型 (ハンター症候群)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
JR-171 (血液脳関門通過型遺伝子組換え α-L-イズロニダーゼ)	グローバル: 臨床 第1/2 相試験	ムコ多糖症Ⅰ型 (ハーラー症候群等)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用 「J-MIG System [®] 」採用
JR-162 (J-Brain Cargo [®] 適用遺伝子組換え酸性 α-グルコシダーゼ)	前臨床	ボンペ病	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
JR-441 (血液脳関門通過型遺伝子組換え ヘパランN-スルファターゼ)	臨床 第1/2 相試験	ムコ多糖症ⅢA型 (サンフィリップ症候群 A型)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
JR-443 (血液脳関門通過型遺伝子組換え β-グルクロニダーゼ)	前臨床	ムコ多糖症Ⅶ型 (スライ症候群)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
JR-446 (血液脳関門通過型遺伝子組換え α-N-アセチルグルコサミニダーゼ)	前臨床	ムコ多糖症ⅢB型 (サンフィリップ症候群 B型)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
JR-479 (血液脳関門通過型遺伝子組換え β-ヘキソサミニダーゼA)	前臨床	GM2 ガングリオシドーシス (テイ・サックス病、サ ンドホフ病)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
JR-471 (血液脳関門通過型遺伝子組換え α-L-フコシダーゼ)	前臨床	フコシドーシス	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
JR-142 (遺伝子組換え持続型成長ホルモン)	臨床 第2相試験	小児成長ホルモン分泌不 全性低身長症	「J-MIG System [®] 」採用

再生医療等製品

開発番号 (一般名)	開発段階	適応症等	備考
JR-031HIE (ヒト体性幹細胞加工製品)	臨床 第1/2 相試験	新生児低酸素性虚血性脳 症	適応拡大 再生医療等製品